市政ニュース

コウノトリ自然放鳥 高く舞い上がるコウノトリ

9月22日、コウノトリ3羽が、城崎町楽々浦の水田地帯から自然放鳥され、豊岡の空へ飛び立ちました。

当日は、観光客や地元住民ら約1、600人が見守る中、放鳥のトレーニングを重ねてきた1歳のオス2羽と2歳のメス1羽が木箱から勢いよく飛び出し、大きな翼を羽ばたかせ舞い上がりました。

午後からは、コウノトリの自然放鳥を記念した「コウノトリと共生する地域づくりフォーラム」が、じばさん但馬の多目的ホールで開催されました。基調講演では、コウノトリファンクラブ会長で俳優の柳生（やぎゅう）博さんが、米の安全性と生態系に配慮した「コウノトリ育む農法」の意義を強調し、集まった参加者とともに自然再生や農業のあり方などに思いをめぐらせていました。

また、翌23日にも日高町山本のケージから3歳のオス1羽と2歳のメス1羽が野外に放たれ、この一連の放鳥で豊岡の空には、20羽のコウノトリが舞うことになりました。

県立コウノトリの郷公園によると、放鳥コウノトリの内、死亡したのは1羽のみで、自然界での繁殖にも成功するなど、これまで順調に野生復帰事業が進んでいることから、本年度で放鳥を休止する方針で、今後、新たな段階に進むとコメントしています。

▲木箱の扉が開くと勢いよく飛び出し、力強くはばたくコウノトリ

より良い就学前の教育・保育を検討 豊岡市幼保対策審議会を開催

10月1日、幼稚園と保育園の今後のあり方を検討する「豊岡市幼保対策審議会」を市民会館で開催しました。

委員は、公募で選ばれた一般市民や保護者、教育関係者、学識経験者など18人で構成。会長には兵庫教育大学教授の加治佐哲也さんが、副会長には、出石区長協議会長の酒井清道さんが選ばれました。

審議会では、今後の幼稚園と保育園が、より良い就学前の教育・保育の場となり、さらに効果的な運営が図れるよう一元化、再編および民営化などについて、地域性も考慮しながら協議を進めます。

なお、答申は来年秋を予定しています。

▲幼稚園と保育園のあり方について意見を述べる加治佐哲也会長（中央）

近畿日本ツーリスト株式会社がコウノトリ基金に寄付 旅行会社が野生復帰の取組みを支援

10月2日、近畿日本ツーリスト株式会社からコウノトリ基金に寄付を受けました。

同社では、「コウノトリの野生復帰の取組み」と豊岡市の他の観光資源とを連携させた新たな旅行商品を販売されており、今回、その収益の一部30、000円を寄付されたものです。

同社西日本営業本部カンパニー本部長の小橋英明さんは「コウノトリを応援したいと考えていました。野生復帰の取組みに効果的に役立ててください」と話すと、中貝市長は「豊岡を訪れる観光客にも満足してもらえるような環境づくりに使わせていただきます」と答えていました。

～主な市政の動き～

【9月】

3日・9月定例市議会（～28日）
14日・市内最高齢夫婦祝福訪問
17日・サイエンスカフェ兵庫in豊岡
18日・市町村アカデミー防災特別セミナー（千葉県）
22日・コウノトリ自然放鳥（城崎町楽々浦）
・コウノトリと共生する地域づくりフォーラム
・豊岡南地区暴追・防犯・交通安全大会
23日・コウノトリ自然放鳥（日高町山本）
26日・但馬自治会による県要望（神戸市）
27日・秋田わか杉国体出場選手激例会
29日・兵庫県人権教育研究大会中央大会（～30日）

【10月】

2日・子育て懇談会
3日・市民環境大学
5日・中国広東省大学生来豊
・日欧共同ワークショップ（～6日）
7日・地域医療シンポジウム
8日・とよおかスポーツフェスティバル2007

Oホテルと災害協定を締結
災害時に備え民間宿泊施設と連携

10月2日、市は、JR豊岡駅前のビジネスホテル「Oホテル」からの申し出により、災害時に避難場所の提供を受ける災害協定を締結しました。

市では、これまでスーパーマーケットなどと物資の提供を受ける災害協定を結んでいましたが、民間宿泊施設との締結は初めてとなります。

同ホテルには、シングル103室、ダブル10室の客室があり、ロビーを含めると14人を収容でき、協定には、災害時に客室を避難所として提供するほか、避難者は寝具やタオルなどの物資やスタッフによるサービスを受けられることが盛り込まれています。

同ホテルマネージャーの岡田ひかるさんが「いざという時のためにしっかりとした対応ができるよう私たちも体制づくりを検討していきます」と話すと、中貝市長は「災害時には要援護者や高齢者、乳幼児などの利用に活用させていただきます。とても心強いです」と答えていました。

▲Oホテルマネージャーの岡田ひかるさん(写真右)と協定書を交わす中貝市長

鳥取豊岡宮津自動車道整備促進大会を開催
早期完成に向けて3府県が連携 促進大会に1、000人が参加

鳥取県鳥取市から豊岡市を経由し、京都府宮津市までを結ぶ「鳥取豊岡宮津自動車道」(約120キロメートル)の早期完成を関係機関にアピールする整備促進大会を10月13日、豊岡市民会館で開催しました。同大会は、沿道自治体等で構成する実行委員会が主催し、今回初めて開催しました。

鳥取豊岡宮津道は、現在、香住道路(香美町香住区)のみが開通し、県内では、余部道路(同区)と東浜居組道路(新温泉町～鳥取県岩美町)で工事が進んでいます。

当日は、関係者や市民ら約1、000人が参加し、第1部のフォーラムでは、国土交通省技監の谷口博昭さんの基調講演や「連携・交流によるこれからの地域像」をテーマにした公開討論会が行われました。

また、第2部決起大会の意見発表では、小坂小学校児童らが、平成16年の台風23号の被災時における道路の大切さを写真などで説明しました。

最後は、会場に集まった全員が立ち上がり、「エイエイオー」と気勢を上げて締めくくりました。

▲フォーラムで意見を述べる中貝市長(左から2人目)

地域医療シンポジウムを開催
但馬の危機的な医師不足の解決に向けて

10月7日、但馬地方の医療について考える「地域医療シンポジウム」を、豊岡市民プラザで開催しました。

当日、基調講演をした赤穂市民病院病院長の邉見公雄さんは、開業する医師が増え、都市部に集まっていることが原因で、地方の医師不足が深刻になっている現状について説明。その後の公開討論会には、豊岡病院の関係者や開業医、中貝市長、市民代表の主婦らが参加し、研修制度の充実や余裕のある勤務への見直しなどで勤務医離れを食い止める必要があることなどを議論しました。

豊岡病院但馬救命救急センター副センター長の倉橋卓男さんは、「小児救急の80%が発熱などの軽症。家庭看護の知識不足がある」と指摘し、近所のかかりつけ医の確保や兵庫県小児救急医療電話相談(☎#8000または☎078-731-8899)の利用を呼びかけていました。

バットの材料となる木を寄贈
70年後の野球少年のために役立てて

10月11日、小代(おじろ)林業研究グループ(香美町小代区)が市役所を訪れ、野球のバットの材料となるアオダモの苗を寄贈されました。同グループは、地元の少年野球チームが好成績を残し、地域が盛り上がる中、何か役に立てればとの思いから、但馬3市2町の市役所や役場にアオダモの苗を贈る取組みを始めました。バットの材料になるのは70年後です。

同グループ代表の井上　孝さんが「但馬の子どもたちのために苗を贈ります」と話すと、コウノトリ共生部長の太田垣秀典は「70年後の子どもたちに使ってもらえるよう大切に育てます」と答えていました。

▲アオダモの苗を贈る小代林業研究グループ代表の井上　孝さん(左から2人目)